



埼玉キムチ新聞

第27号

2024年9月14日

販売会毎発行

(努力目標!)

kimuchi@saiai.net

■特別企画 埼玉キムチ新聞を振り返る・その③

『埼玉キムチ新聞』の過去の記事タイトルと冒頭部分を紹介する特別企画の第3弾です。

過去の新聞は「誰もが共に生きる埼玉県を目指し、埼玉朝鮮学校への補助金支給を求める有志の会」HP

(<https://tomoni-saitama-koreanschool.org>)

で読むことが可能です(PDFダウンロード可能)。是非、多くの方々に読んでいただきたいです。

●第十一号(2022年1月19日)

〇〇から見る朝鮮学校その6

◆詩・その2◆

これがおれたちの学校だ

一九四八年四月、東京都京橋公会堂で開かれた朝鮮人教育不当弾圧反対学父兄大会に寄せた朗読のための詩
元朝鮮初級学校長の詩
元朝鮮初級学校長の詩2

子供たちよ

これが おれたちの学校だ

校舎はたとえみすぼらしく、
教室はたった一つしかなく、

机は
君たちが身をよせると
キーッと不気味な音を立て、...

(中略)

この詩の作者である許南麒は一九一八年、当時は既に日本の植民地であった慶尚南道龜浦に生まれました。一九三九年に日本に渡り、日本大学芸術学部映画科に在学した後、中央大学法学部を卒業しました。

■第十二号(2022年3月日)

「さいたま市外国人学校児童生徒保護者補助金」問題を考える

現在、埼玉朝鮮学園(学校)に対する埼玉県の補助金は2010年度から不支給となっているが、埼玉県下の市レベルでは、朝鮮学校に子どもを通わせる保護者を対象とした補助金が支給されている。朝鮮学校が所在し、学校保護者が最も多く居住するさいたま市でも同種の制度がある(「さいたま市外国人学校児童生徒保護者補助金」。初級部は年間2万円月額約1,666円、中級部は年間4万円月額約3,333円)。

■第十三号(2022年5月7日)

朝鮮学校をもっと知る・その6

「高校無償化」からの朝鮮学校排除

「キラキラ光る無償化の文字／私たちの心を躍らせた／手を振って去る無償化の文字／私たちの心を凍らせた」
これは2010年に京都朝鮮高級学校に通う女子生徒によって書かれた詩である。民主党政権下、2010年度から「高校無償化」制度が開始されると聞き、当事者はみな喜んだ。なかでも、外国人学校にも適用される方向で制度設計がされていると聞いた朝鮮学校関係者にとっては、喜びもひとしおだった。それまで学校教育法上の認可を取っているにしても、それは「各種学校」に過ぎないということで、国からの公的支援の対象からはことごとく外されてきたからである。

誰もが共に生きる埼玉県を目指し、

埼玉朝鮮学校への補助金支給を求め

る有志の会「HPはこちら」



★埼玉キムチについて★

2010年度末、埼玉県は、「財務の健全化」を口実に埼玉朝鮮学園への補助金の支給を打ち切りました。また、埼玉県議会は2012年に「拉致問題が解決するまで補助金の支給を行わない」という附帯決議を行いました。これは朝鮮学校に通う子どもたちとは何ら関係のない外交政治上の理由を持ち出すことによる不当な差別に他なりません。2018年度に県が財務状況について、「健全性が確認できた」と学校に通達した後も支給停止は続いています。

このような非常に厳しい状況の中、埼玉キムチは少しでも学校運営に寄与するため、「利益全額カンパ」の活動を行っています。美味しいキムチとともに、朝鮮学校支援の輪が広がりますよう、ご協力よろしくお願い致します。